



今月の題字

田村智子さん

(みどり市大間々町)

足利屋から5軒隣の複合施設『ハジマル』で、毎週土曜の夜、おぼんざいの店『Shiretto』をはじめた智子さん。優しい人柄と絶品の味が大人気です。

虹の架橋検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

足利屋を陰で支えた功労者
松崎千代水彩画展開催中

松崎千代(旧姓中野ちよ)は大正八年に前橋市の老舗和菓子屋『松屋』の長女として生まれました。十三歳で前橋高等女学校に入学、そこで絵の才能を開花させました。二十三歳で大間々の足利屋の二代目松崎福司



と結婚しましたが福司はその年に出征し、戦後はシベリアに抑留され、強制労働の毎日でした。足利屋では、福司の弟二人も相次いで招集され、千代は女手一つで足利屋を守り続けました。福司が戦争から戻ったのは五年後のことでした。その後、娘二人を授かり、三人目に男児を出産した三時間後にこの世を去りました。三十三年という短い生涯でした。千代が花嫁道具と一緒に持ってきた絵は六十年間、物置の中で眠り続けていましたが、足利屋が創業百年を迎える前の年に偶然発見されました。足利屋では、先祖の遺徳を偲ぶために今回、『松崎千代水彩画展』を開催いたします。『人は二度死ぬ。一度目は肉体、二度目は思い出の中から忘れ去られた時』という言葉があります。松崎千代は今も足利屋で生きています。(松崎靖)



小耳にはさんだ

いい話 (文責・靖) 《369》

郷土の歴史や文化を詳しく教えてくれた萩原康次郎先生の著書『間々はゆりかご』の中に「足尾線開通の頃」という興味深い一文が紹介されています。大間々駅が開業した時、駅前には現在の停車場通り(全長約200m)はまだありませんでした。停車場通りを作るために土地を提供したのは、野口英一郎、小森谷源次郎、斎藤久太郎らの地主で、工費を寄付したのは米穀商のマルホ、近江屋、乾物商のいも寅、紙荒物商のマ

足尾線開通の頃

スヤ、薬種業の伊勢武などの他、その当時、町の発展を願っていた80人もの人たちでした。今も駅前広場には115年前に建立された『新路之碑』が残っています。そこには『草むらを開き、平らな道は砥石の如く、直路矢の如し。聳ゆるはこの山、流るるはこの水。眺望よく風景鍾美。新路成り皆歡喜す』という詩的な表現で大正初期の様子が記されています。足尾線大間々神戸間が開通したのは大正元年10月。その時の駅名は「大間々駅」でなく「大間々町駅」でした。それは、明治21年に開通した両毛線にすでに「大間々駅」があったからです。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の絵《369》

野口智子さん『銭湯千代の湯』



銭湯・千代の湯は120年前の大間々の地図にもその名前が載っているほど古い銭湯で、岡直三郎商店北側の通称『桶の細道』の『三方良しの井戸』の横にありました。令和4年6月に千代の湯は解体されて更地になってしまいました。野口さんの絵を見ていると古き良き時代の『4丁目の夕日』が思い出されます。60数年前、私たちが子供は、千代の湯の隣にあったナカジマという駄菓子屋で毎日遊んでいました。4月29日〜5月6日まで、桐生市東久方町の「四辻の齋嘉」で野口さんの『スケッチランのぐち水彩画展15』が開催されています。



新路之碑

の後、両毛線の大間々駅は岩宿駅となり、大間々町駅が大間々駅になりました。大間々の足利屋が停車場通りで松崎足袋店として商いを始めたのは、大間々駅や停車場通りが出来た翌年のことでした。停車場通りができるのと共に多くの料亭や芸妓の置屋ができ、当時県内一の規模で1200人収容の大間々電気館が出来た頃には停車場通りは賑やかな繁華街になりました。また、大間々駅は多くの歴史を刻んできました。戦争中は多くの出征兵士が戦地に赴きました。昭和17年11月28日の町内回覧板

には「出征兵・松崎福司君朝7時大間々駅発。毎戸御歓迎下サルヨウ御願ヒ致シマス」と記されています。先日の4月10日、郷土を美しくする会が行ってきた大間々駅のトイレ掃除が1500回の節目を迎えました。毎週金曜日に仲間と一緒に駅の掃除を続けることで町への愛着が深まり、駅や町の歴史にも関心を持つようになってきました。

靖ちゃん日記

令和8年4月18日(土)
大間々駅のトイレ掃除が1500回になったのを祝って仲間5人で食事会を開いた。場所は、4丁目の複合施設「ハジマル」。週替わり営業の土曜日は、おぼんざいの店「Shiretto」この店の店主の智ちゃんと津佐後の毅ちゃんとは去年の4月にここで知り合っただけ。トイレ掃除の仲間にも加わった。今日の参加者のうち半数はここで知り合った飲み友達。全員がまちづくりに興味を持ち、この時が好意という若者たちばかり。平均年齢も一世代若返った。ゆるい飲み会を企画、掃除を始めた時のことを思い出した。30年前、酔った勢いで「明日から駅のトイレ掃除を始めよう」と言ったの女まっけだった。酔った勢いのお陰で、もしかしたら、切手前、プロポーズした時、酔った勢いで「受けてるキレなんて言、たのかもしれない。掃除もプロポーズも、あの時のお陰で今がある。酔った勢いで失敗したこともあ、純粋にいれば本物になる。

緑陰や道元の歌碑花の寺

新里町新川の曹洞宗龍真寺は「ぼたん寺」の愛称で親しまれ、ピンクに始まり、赤や紫、白や黄色や黒牡丹等2500株の花々が次々に開花します。龍真寺の本堂にはご本尊の聖観世音菩薩や延命地藏が安置され、曹洞宗の開祖・道元禅師の『春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえてすずしかりけり』や『いたずらに過ぎす月日は多けれど道を求むる時ぞすくなき』の歌碑、『吾只知足』の蹲(つくばい)などもあり境内の散策が楽しめます。モミジの新緑もとても美しいですよ。

第三百七十号は令和八年六月一日(月)発行予定です。

靖ちゃんの似顔絵提供:ひさかさん